

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0970500484 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人久寿福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム おしはらの里 | | |
| 所在地 | 栃木県鹿沼市縦山町40番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年7月 9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年11月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は敷地内に学童保育やデイサービスセンターが併設されており交流も行われています。敷地内南側には畑があり、職員管理のもと取れたての野菜を常に提供しています。昨年においては外出の推進として両ユニット合わせて平均週1回の外出が行われました。一昨年の冬より足利フラワーパークの夜のイルミネーションを見に行くことを毎年の恒例として行っています。その他茨城県の大洗水族館にも外出しました。また、以前より行っている自立支援介護を実践している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道沿いにあり、近くには小学校や地区コミュニティセンター、スーパーマーケットやドラッグストア、コンビニエンスストアなどもある利便の良い環境にある。広い庭には桜や銀杏、もみの木などの植栽があり、四季折々の草花が楽しめるほか、敷地内には同法人のデイサービスと学童保育が併設され、午後には小学生の遊ぶ姿などもみられる。建物を囲むように配された幅広のウッドデッキは散歩や外気浴の他、避難経路としても活用している。敷地内の畑でキュウリやトマト、ナスなどの野菜や、いちじくなど季節の果物を育て、収穫したての新鮮野菜を食卓に上げて、季節を感じながら毎日の食事を楽しめるよう工夫している。「水分摂取」「常食化」「適度な運動」「トイレでの排泄」といった自立支援介護に積極的に取り組み、利用者の生活の質の向上、自立に向けたケアの質の向上に努めている。職員はコミュニケーションを大切に日々の支援にあたっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年9月11日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に掲げた4つの理念を職員一同共有し、実践に繋げている。 | 「利用者を受容するケア」「利用者のニーズを探り実践に向けたケア」「事故のない安全な生活」「思いやりのケア」を念頭に、利用者一人ひとりが自分らしく、心穏やかに、安心して気持ちよく毎日過ごせるよう心掛け、日々の支援にあたっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、年2回の地域清掃に参加している。施設の行事に地域の方々を招いている。 | 併設の学童保育との日常的な交流がある。バーベキューなどの行事には近隣住民を招待し交流の場を設けている。秋祭りや小学校の運動会などの地域の催しや、認知症カフェへ出かけ、地域住民との交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設行事の際など自治会長様に窓口となって頂き、町内の老人会・婦人会の方々を招いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。利用者の動向、活動状況、研修や学習会の内容の話し合いを行っている。 | 2カ月に一度開催し、利用者の動向、行事や職員研修の活動報告の他、地域の取り組みや催事の情報など意見交換を行っている。 | 参加者からの意見を取り入れる工夫の一つとして、開催回毎のテーマを掲げるなど、提案や意見が出やすい問いかけや、話題が広がり話しやすい雰囲気作りに努められたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 管理者が窓口となり、市との連絡・相談をしている。また、ケアマネージャーが、連絡協議会に参加することもあり、担当者との協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 市の情報はメールや郵送で通知が届く他、担当職員に運営推進会議に出席してもらい事業所の実状を知ってもらうなど、相互の情報共有に努めている。各種相談など必要に応じて市担当各課と連絡を取り、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 学習会の会議で取り入れ職員の意識と理解の向上に努めた。また、危険箇所を除いた施錠の解放をし自由に外に出られるようにしている。身体拘束・虐待防止委員会を設け2ヶ月に1回開催している。 | 日中は戸外へも自由に出入りできるよう安全に配慮しつつ見守っている。全職員が情報共有し目配り気配りをすることで、利用者の意思を尊重しながら拘束のないケアを実践している。定期的な勉強会を行い、職員の学習の機会、振り返りの機会を設けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員間で虐待が無いよう日々利用者の表情や皮膚の確認を行い、声を掛け合うことで防止に努めた。身体拘束・虐待防止委員会を設け2ヶ月に1回開催している。 | | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人がついている方が入所されているため、関わりを持つことでより一層理解に勤めることが出来た。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 管理者より契約事項説明書、契約書により十分な説明を行い、書面による契約を結んでいる。出来る限り納得して頂ける様説明をさせて頂いています。随時不明な点があれば説明させて頂きます。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 介護サービス計画書更新時に御家族からの要望を伺うように心掛けている。また、各ユニット玄関に御意見箱を設置。 | 日々傾聴に努め、何気ない会話からも利用者の要望をくみ取るよう心掛けている。家族の面会時などは話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は検討し、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。利用者の動向、活動状況、研修や学習会の内容の話し合いを行っている。各ユニットから職員や利用者を会議に参加して頂いている。 | 管理者は職員と日頃から話しやすい関係を築いている。隔月で行う職員会議、全体会議では活発な意見交換を行い、日常業務や運営に活かしている。個別面談を年2回実施し、職員処遇についても意見を表せる機会を設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパスの作成を行い環境・条件の整備を行い向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 面談や日々の会話を元に個性を生かせる環境作りを進めている。内部研修を開催することで職員の力量の底上げを進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所開催の研修参加やグループホーム協会等の研修参加により、他事業所職員との交流を行っている。交流の際、お互いの施設の状況等を話し合いサービス向上にも繋げている。 | | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 寄り添い、本人との交流を多く持ち理解を得ることで安心や信頼関係を築けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人の情報を家族より伺いつつ、家族を理解していくことで、出来る限り良好な関係作りにも努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者様・家族様それぞれに必要なとされる支援がある為、常に声を聞き耳を傾けさせていただき対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に利用者様に寄り添うことで気持ちを共有している。暮らしを共にする中で利用者様と洗濯、洗い物、買物、草むしり等を共に行動している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 必要に応じ御家族様と連絡を取り、来荘時には職員から情報を発信することで御家族様より話を頂くことが出来、関係を築けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | デイサービスを利用されている方の中で御家族や友人の方が散歩の途中に寄ってくださったりこちらから会いに行くこともある。また、帰宅願望のある方でも自宅付近をドライブされている。 | 家族や知人の訪問があったり、自宅付近など馴染みの場所へドライブしている。県外に住む姉妹に会いたいといった希望にも応えられるよう、実現に向けた取り組み、働きかけをしている。家族や友人の来所時には居室にて水いらずで昼食やお茶の時間を過ごせるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 必要に応じ利用者様間に職員が介入する事で孤立を防ぎ、利用者様同士の良好な関係の維持に努めることが出来た。その都度テーブルの配置を考え良好な関係が続くよう支援に努めている。 | | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了した場合こちらからフォローしていく事はサービス提供外と考えられるが、相談を持ちかけられた場合は可能な限り力になりたいと思う。必要に応じて臨機応変に対応させて頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 何気なく出た思いを聞き逃がさず常に把握し職員間で把握できるよう情報交換を行い実現できるよう努めている。 | 日頃から傾聴に努め、寿司を食べたい、針仕事をしたい、草むしりをしたい、小説を読みたいなど、日常の何気ない会話の中で出た言葉から思いをくみ取っている。言葉少ない場合も、入浴中など1対1で接する時にそれとなく思いを伺い把握するよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や馴染みについての生活環境において理解出来てない事が多くあるので、利用者様や御家族様との会話を多く持ち把握する事に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様全員とより多く関わりを持ち職員間で情報を共有することで把握する事が出来ている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や御家族の要望を取り入れたり、職員のアイデアなどにより生活の質が上がるように努めている。 | 利用開始時、ひと月後、半年毎の見直し及び必要に応じその都度見直しを行っている。本人、家族、協力医、職員等関係者の意見や要望を取り入れ、生活の質の向上や本人が安定した生活を過ごせるよう配慮し、現状に即した計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は生活記録に記入し、御家族様との連絡や気づきは連絡事項に、また、申し送りなどで職員間で伝わるように行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様だけでなく御家族様の状況に応じサービス内容に捉われ過ぎず、柔軟に支援の幅を広げることが出来た。 | | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | まだまだ地域資源を把握出来ておらず、支援出来ていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は入所時に希望を聞き、御家族様に判断を委ねています。 | かかりつけ医の継続や協力医への変更など、利用開始時に希望を確認し、本人と家族が納得した医療を受けられるよう支援している。通院は家族対応を基本とし、困難な場合や緊急時などは職員が支援している。病院、家族、事業所間で情報共有し、本人の身体状況の共通理解に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師訪問時何かあれば常に伝え情報の共有、相談、指導を頂き職員・看護師共に最大限の受診や看護を提供できた。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 御家族に了承を得た上で病院に直接面会し、その都度病院関係者との情報交換を行っている。必要に応じ電話にて相談もさせて頂いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期ケアは導入していないが重度化は当ホームでも進んでおり、ケアマネージャーを中心に御家族様、職員が話し合い共有し、必要に応じ担当医に相談しながら支援に取り組んでいる。 | 終末期のあり方については利用開始時に意向を確認するほか、本人の状態に変化が見られたときや重度化した場合は、家族との連絡を密にし、その都度、意向を再確認している。事業所としてできること、できないことを具体的に伝えた上で、本人・家族が納得した最期を迎えられるよう支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | リスクマネジメントについて話し合い、初期対応や手当等を学習、訓練している。スキルアップこそしたもののまだ、実践力を身につけるまでは至っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練や消防署との話し合いを行う事で、改めて避難場所を明確に出来た。会議での話し合いにて全職員が対応出来るようにしている。 | 日中・夜間想定避難訓練を年数回行っている。火災や水害等様々な災害を仮定し、状況毎に避難手順や避難場所を明確にし、円滑な避難や状況に応じた安全な対応が行えるよう備えている。3日分の備蓄も整備している。 | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方に合った声掛けをユニット内で共有する事で人格の尊重や誇り・プライバシーを損ねない対応を常に心掛けている。 | 利用者一人ひとりに合った声かけや話しやすい雰囲気作りに努めつつ、言葉の乱れは介護の乱れに繋がるとの考えのもと、丁寧語で話すことを基本としている。利用者間の関係においても個々の人格が尊重されるよう配慮した対応を心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 傾聴と同意を基本とし常に本人様の声に耳を傾け、出来る限り対応出来るよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 御本人様のペースを日々の対応の中で理解し、常に思いを聞き入れ出来る限り支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 御自信で選択出来る方は御自信で選択して頂いている。そうでない場合職員が用意し本人に伺い了承を得てから支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備・片付けを御利用者様、職員が共同で行っている。日常の会話や普段の食事の様子から好みを理解し、決められたメニューの中で好みの味を提供できている。 | 栄養士の作成した献立を基に、家族からの差し入れや畑で取れた旬の野菜を取り入れ調理している。庭で花見をしながら弁当を食べたり、流しそうめんをしたり、クリスマスにはバイキングを行ったりと、季節毎の食を楽しめるよう工夫している。寿司や蕎麦など利用者の嗜好に合った外食にも出かけている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士のメニューを提供し摂取して頂いています。水分においては嗜好調査をその都度行い1日の摂取量を平均1,5ℓ以上の維持を目指している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後職員が付き添い口腔ケアを行って頂く事で口腔の清潔を保って頂いている。出来ない所は職員が支援している。訪問歯科医との連携により口腔状態を更に良好な状態に保っている。 | | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人ひとり排泄パターンを調査しトイレでの排泄が行えるよう支援した。結果日中のおむつの使用枚数が減った方もいた。 | 排泄表により排泄パターンを把握し、表情や仕草から察し声掛けしている。個々に合わせた環境作りを工夫することにより、おむつを使用していた利用者もトイレでの自立した排泄ができるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、運動、食事の3点からそれぞれ便秘予防に取り組んだ。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴を個人に何うことで個人のタイミングで支援できている。 | 時間帯の希望や毎日入りたい、友人と入りたいなど、利用者の思いに添った支援を心掛けている。1対1で支援し、歌を歌ったり会話を楽しんだり、個々のペースに合わせてゆっくりと入浴ができるよう支援している。基本は週2回だが、入浴のない日も足湯など、体が温まる工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 通常の時間に決まりを設けず、日没時間や御本人様の希望に添った時間に休んで頂けるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 会議にて薬1つひとつ名前と効能を読み上げ職員全員で理解に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 外出の機会を増やす事で日々の生活に潤いが増す事が出来た。日々の生活の中で食器洗いや洗濯などの日常動作を役割として持っていただいています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者様1人ひとりに要望を聞き県外の外出や夜間のドライブ等今まで行えなかった範囲の支援も行った。また、御家族様が旅行に連れて行って下さったりと外出の幅を広げることが出来た。 | 日常的に庭の散歩や近所のスーパーマーケット、コンビニエンスストアへの買い物などへ出かけている。温泉や観光名所への遠出や、道の駅や地域の祭、夜のドライブなど、幅広く外出の機会を設けている。盆と正月の帰省や家族との旅行などの外泊も支援している。 | |

グループホームおしはらの里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 御家族様のご理解も増え、外出の際にはいつでもお金が使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 暑中見舞いや年賀はがきを利用者様1人ひとりが書き、御家族様に出されている。その他電話を御家族に繋ぎ話をされたり、御親戚の方々への電話も対応できている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホール内に外の風を入れることで季節を感じて頂いている。その他季節の飾りをホールに飾ったり、庭に花を植えたりと常に季節を感じられるよう配慮している。 | 吹き抜けのあるホールは見通しもよく開放感がある。床暖房を完備し、小上がりの和室では畳や掘り炬燵でくつろぐこともできる。室内全体に木材をふんだんに使用し、和風の落ち着いた空間を作り、掃除を行き届かせ清潔を保っている。幅広のウッドデッキやリビングの窓から庭を眺め、四季の移ろいを感じられるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 各テーブルごとに気の合う方同士で過ごして頂き、居室は個人の空間として常に配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 1人ひとりの個性を理解し、それに合わせた対応を御家族様と常に相談し工夫できている。 | 居室にはエアコン、洗面台、押入を完備している。これまでの生活様式や個々の好み、身体状況に合わせた寝具(和布団やベッド等)、机や椅子、箆箆やテレビなどの家具家電、趣味の品や思い出の品など持ち込みは自由で、各々その人らしい居室となるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯や食器拭き、部屋の掃除や草むしりといった役割を生活に取り入れる事でより自立した生活が送れるよう支援している。 | | |